

NEWS LETTER



NO.39

2011.10.15

にほんごひろば岡本

発行：にほんごひろば岡本

〒658-0003 神戸市東灘区本山中町 4-18-22

☎078-453-5931

http://www.geocities.jp/nihongohiroba_okamoto/

ひろばの新しい取り組み

今年度から兵庫県国際交流協会の新規事業として「外国人県民・児童生徒の居場所づくり事業」が開始され、微力ながら「にほんごひろば岡本」もその一環を担うことになりました。

具体的には、従来の「地域日本語教室の開催」に対する助成金が、「外国人県民対象の地域日本語教室の開催」と「外国人児童生徒対象の日本語教室・日本語による教科学習教室の開催」の二本立てで交付されることになりました。

これをうけて、9月17日に臨時総会を開き、助成金の増加に伴う補正予算を承認、今後、児童生徒への支援に積極的に取り組んでいこうとの意思確認をしました。

私たちは、設立以来、大人と子どもの区別なく支援活動をしてきたので、他の団体からの紹介で何人もの子どもたちを受け入れてきました。

子どもの支援は難しい、興味を引き出すには一体どうしたらいいのか、本人の個性や能力、親との関係も複雑なものがあるし・・・そういった悩みを抱えながら、今までに何人もの支援者が悪戦苦闘し、それぞれ一定の成果をあげてこられました。

現在、小学生3人、中学生1人、高校生1人と、来日もない17歳が学習しています。そのバックグラウンドもニーズもさまざまですが、ひとりひとりに寄り添った暖かい支援活動がなされています。親の事情で来日し、異文化の中で生活、教育を受ける子どもたちに対する支援活動は今後ますます重要な役割をもってくるものと思われ、その責任は決して軽いものではありません。

子どもを担当されてきた支援者のこれまでの経験や知恵を生かしながら、外部で開かれる研修などにも積極的に参加して、心構えやよりよい支援方法など実践のノウハウを学んでいくことも必要だと思っています。

何よりもまず、私たちの子どもや孫や知人の家族が、同じような環境に置かれたらと想像してみることから支援の第一歩が始まるのではないのでしょうか。

「にほんごひろば岡本」が、子どもたちにとって「こちよ居場所」になるように、気負わず、気長に、楽しく！活動を続けていきましょう。 (西村佳子・代表)

学習者紹介

★徐 徳源くん 韓国出身

多国の言語を勉強中

4月に韓国から来た徐くんを担当している新家です。徐くんは週に2日ひろばに来ていて、水曜日は宮武さんと2人で、土曜日は村岡さんと私の3人で勉強しています。勉強といっても、土曜日の方は会話の練習ということで、ほぼずっと雑談をしています。お互いに日本と韓国を紹介し合って新鮮な時間を過ごしています。

神戸大学海事科学部在籍中の徐くんは、今年の2月に帰国した韓くんとミリさんの後輩で、韓国にいた頃からの知り合いだったそうです。ちなみに徐くんが今乗っている自転車は、韓くんが留学中に使っていたものをもらったと言っていました。

徐くんは来日までに独学で6カ月間勉強して



いたので、ひらがな、カタカナはほぼ完璧、今は漢字を勉強中です。韓国で漢字の検定試験の資格を取得しただけあって漢字には自信があるようですが、日本語の漢字は難しいとよく言っています。将来は日本語で書かれた小説が読めるようにと、少し前から日本語の童話を読み始めました。今では毎日1話ずつ読むのが習慣になっているそうです。読書以外にも幅広い趣味の持ち主で、韓国にいた頃は釣りに行っては自分で魚をさばっていたそうです。他にもスケ

ートやスノーボード、自転車、料理が好きで、少し前からはギターも始めたそうです。

言語の面でも好奇心旺盛で、将来は日本語・英語・中国語・イタリア語・フランス語・スペイン語と数々の言語を習得したいそうです。韓国にいた頃は日本語を喋る人がかっこよく思えたそうですが、留学生活が2カ月になるかならないかの頃には日本語も聞き慣れてしまったのか、今は英語の方がかっこよく聞こえるそうです。最近は日本語以外に英語の勉強も始めたそうですが、日本に来てからカタカナ英語が身についてしまい英語の発音が悪くなってしまったと少し苦笑いでした。徐くんによると、韓国人に発音できない音はないため、外国語を勉強する際に発音の面で苦勞することは全くないそうです。外国語への適応能力が高いようで、この間も寮の部屋で韓国人同士で飲んでいた時にまでつい日本語が出てしまった、という話もしてくれました。

まじめで勉強熱心な徐くんこれからも頑張ってもらいたいと思います。(新家 はるか)

★朴 弘烈くん 韓国出身

将来は建築家・カフェのオーナー

今まではずっと子供の支援をしていた湯地です。

今回は初めて、小、中学生ではなく、朴くんという韓国から来た大学生の支援をさせていただくこととなりました。

朴くんは大学では建築関係の勉強をしていて、将来は自分の建てた場所でカフェをしたいとか。日本には日本語を勉強するために来ました。

朴くんの良い所は、正直なところですが、日本に来る前に韓国で受けてきた日本語のテストの点数を、見栄を張ることなく正直に教えてくれました。いつもすごく優しいのですが、最近、

テキストの例文を基に朴くんの子供のころのエピソードを話してもらおうと、色々と驚くことが多いです。子供のころも今も悪戯好きなのかもしれません。

日本には1年くらいしかいませんが、日本に



いるうちに日本語能力試験の N1 に合格したいそうです。朴くんをご存じの方は想像がつくかもしれませんが、あの朴くんスマイルと共に「N1 を取らなければ意味がありませんから」というセリフを確かに聞きました。直球過ぎて恐ろしかったのですが、一緒に頑張っていきたいと思えます。

朴くんは日本で、いろいろな場所に行きたいそうです。韓国から行った方が実は楽かもしれないと最近は気が付いたそうですが、北海道にも沖縄にも行きたいとか。

カメラも買いたいし、やりたいことだらけ。友達も沢山作りたいみたいです。

あっと言う間に時は過ぎ、朴くんの日本での生活も残りわずかです。充実した楽しい一年にしてほしいので、皆さんも朴くんの思い出作りに参加してくださいな。(湯地みどり)

★ホー・イー・サンさん

シンガポール出身

話題が豊富で話すことが大好き

ホーさんはシンガポール生まれですが両親は中国人です(従って漢字は得意)。

シンガポール政府の電気通信会社(日本であればNTT)の職員として1986年に1カ月ほど国から派遣されて日本で仕事をしました。その時に日本人のやさしさや親切心に触れて日本が好きになったそうです。その後、シンガポールでマレーシア出身の奥さんと結婚し、現在は中学生の息子さんが一人います。

昨年2月に奥さんの仕事(彼女は製薬会社の管理職)の都合で退職して日本に来ました(奥さんの仕事優先の愛妻家です)。従ってホーさんの現在の肩書は専業主夫です。

さて日本語は来日後勉強したので今はなんとか日常会話がこなせる(?)レベルです。しかし、「話したい、喋りたい」という意欲は素晴らしく、いつも私が聞き手にまわっています。

ひろばに来た当初は「みんなの日本語」を教



材にしていたのですが、彼はテキストより自分の興味のある話題について話すのが大好きなので、今は会話主体のレッスンで会話の中で出てくる文法的な問題を取り上げたり新しい文型を覚えたりする方法で勉強しています。

レッスンでは毎回、政治、原発、宗教、日本の歴史、さらには旅行の話と次から次へとホーさんはいろんな話題を出してきます。先日も仏教の話が出てきて、彼は得意の漢字交じりに「座禅とは心理と生理の基礎」とか「信は道元功德の母」と書き出して勉強不足の私はたじたじ・・・

また、日本のTVもよく観ており、「野田新首相の印象は冷静、慎重な人です」ときりだして私を驚かせました。ニュースだけでなく今はNHKの朝ドラ「おひさま」にはまっているそうです。

さらに彼は主夫なのでスーパーや料理のことも話題になります。

しかし私が一番感心するのは彼の「話したい」という気持ちの旺盛なことです。残念なことに彼の今の会話のレベルではこれらの豊富な話題についてうまく話すことはなかなか出来ません。言いたいことはたくさん有るのに言葉に出来ずもどかしい。このとき彼はしばらく「う～ん。」と上を向き一生懸命、言葉をさがします。そして最後の手段は得意の漢字による筆談です。私は彼の書いた漢文(?)を見てなるべく簡単な日本語の文章に直し(日本と中国では漢字の意味が異なることがしばしば有り要注意)彼に説明します。

今後も彼の話すことに対する意欲を尊重してレッスンに生かしたいと思っています。

最後になりますが教室の黒板に貼ってある漢詩(写真参考)に皆さん気がつかれました



か?あれはホーさんが七夕の時に即興で書いたものです。驚かれたでしょう。意味は今度ホーさんに会ったときに直接本人に聞いてください。

なかなか抒情的な素敵な詩ですよ。

(宮武寿美雄)

みんなのひろば

「にほんごひろば岡本」2011年度 第12回総会・支援者交流会

第12回総会が5月14日(土)に開催されましたので簡単に報告いたします。

(議事内容)

- 第1号議案・・・2010年度活動報告
- 第2号議案・・・2010年度収支報告
- 第3号議案・・・2011年度活動方針
- 第4号議案・・・2011年度予算
- 第5号議案・・・2011年度役員改選
- 第6号議案　　その他

(総会設立要件)：登録者総数 47名、出席者 24名、委任状 19名で規約により過半数以上を満たしているため本総会は成立しました。また、上記の議案について議事が行われ全て承認されました。

審議された内容の中について少しご説明させていただきます（なお、各議案の詳細については皆様に配布済の「第12回総会議案書」を参照ください）。

第1号議案 2010年度活動報告のまとめ（今後の課題）

活動報告7に記していますが、平成23年度兵庫県の「外国人県民・児童生徒のための居場所づくり事業」の説明会（2011年4月28日）がありました。これは県が新たに設けた事業（助成金有）の参加募集に応募するため、兵庫県国際交流協会の説明会に2名出席しました。詳しくは巻頭頁をお読みください。



第5号議案 2011年度役員が次のように決定しました。

代表兼会計	1名	西村佳子	
顧問	1名	下田美津子	
副代表	2名	宮武寿美雄	坂本喬子
会計監査	2名	橋本桂子	松見和代
運営委員			
	コーディネーター	小澤恭子	
	教育研修	市川邦子	
	広報	三木知津子	
	記録	井畑真理子	
	イベント	大西勇（リーダー）	泉尚子 才木綾子 佐々木五十四 佐柳有里 園田（安楽）美希 橋本桂子 村岡 聖 湯地みどり

【支援者交流会】

総会に引き続き、支援者交流会が開かれました。軽食を取りながら歓談の後、学習者のタイプ別に分かれて各グループで悩みなどを話し合いました。グループ毎にまとめとして以下のような発表がありました。



1. 主婦が主な学習者

- ①話題としては主婦の日常生活、特に料理などの表現、敬語など。
(言葉) 煮る、炊く、ゆでる、しんなり、しゃっきり
- ②学習者が誰に日本語をしゃべるか→場面が少ない。
- ③テキスト 日本語文法ハンドブック (サンクス)
- ④愚痴の聞き役で終わることもある。



2. 児童生徒が主な学習者

- ①最初は反応が無かった (学校では喋るのがこわい) ので文法以前に話すこわさからの脱却を図った (失敗してもOK)。
- ②先に英語の文章をみせてから説明。
- ③動詞の変化が難しい。
- ④絵カードを使う。

3. 能力試験受験が主な学習者

- ①本人の希望は1級だが実力を見て2級を受験。
- ②韓国ではひらがな、カタカナだけで漢字はあまり勉強していなかった。
- ③模擬試験問題を積極的に行った。
- ④細かい発音はあまり気にしない。
- ⑤テキスト：日本語総まとめ

4. 就労が主な学習者

- ①本人の希望でテキストなし、フリートークがメイン。
- ②来日3年だが職場で日本語を喋るチャンスが少なかった。最近日本人のパートが増えたので、コミュニケーションの手段としての日本語が必要になってきた。



2) グループディスカッションのまとめ

1. 主婦グループ

- ①言葉数の少ない人でも少ない言葉の中から話題を引き出してあげる。
- ②メールは書き言葉の練習になる。
- ③色々な事、特に困っていることや悩みが聞き出せる雰囲気作りが必要。

2. 児童生徒グループ

- ①子供とその親の求めるものが違う。
- ②公立校とインターナショナル・スクールの違い。
- ③子供の集中力を考えると 90 分のレッスン時間は長い。60 分がベター。
- ④ひろばに子供のテキストが少ない。

3. 能力試験受験グループ

- ①受験の目的は資格として必要（入社試験ほか）。受験勉強をすることでモチベーションがあがる。
- ②試験の可否に関して支援者があまり責任を感じる必要は無い（要は本人次第）。
- ③N4, N5 レベルのテキストが少ないのでは。

4. 就労グループ

- ①職場で日本人と（日本語で）話す機会が少ない。
- ②仕事のためにレッスンを休む人が多い。
- ③レッスンに来ることを強要せず本人の主体性にまかせる。

☆七夕まつり



今年の七夕まつりは7月2日（土曜日）と7月6日（水曜日）に行いました。特に2日の土曜日は多くの方が参加してくれました。今年は、イベント係のみなさんの企画で折り紙やお習字で作品を作ったり、紙芝居を学習者や支援者が一緒になって発表しました。言葉はよく分からなくても、絵をみて理解してくれたようです。もちろん浴衣も着ましたよ。写真はHPにもアップしますので、ご覧ください。

